

令和6年2月 令和6年度予算案重点事業【テキスト版】

高際区長

多くの皆さまにお越しをいただきましてありがとうございます。来年度の予算案につきまして、ご説明させていただきます。

その前に、昨年は定例の会見を行わせていただきましたけれども毎月多くの皆さまにお越しいただきまして、たくさんご取材をいただきましてありがとうございました。今年もどうぞよろしく願いいたします。

それでは早速来年度の予算案の重点事業を中心にご説明をいたします。

まず目次でございます。本日ははじめに令和6年度の予算案の概要をご説明申し上げた後に、私はいつも8つの柱ということで言っておりますけれども、その8つの柱ごとに主な事業をご説明申し上げたいと思います。

最後に全ての新規拡充事業の一覧と、担当の部署を書いておりますので、これは面白そうだというものがあれば、是非どしどしとご取材いただければと思います。

それでは早速、令和6年度の予算案全体の概要についてご説明を申し上げたいと思います。これはしつこいほど皆さまにお示しをしております。私が区長になったときから、この「3つのつながる」というのを豊島区政の根幹に置いて、区政運営を進めたいと思ってきました。

今まで大切にしてきた、積み上げてきたものを大事にしながら、それをよりブラッシュアップさせて未来につなげていこうということと、それと2つ目はこれまであまり区政とつながりが深くなかった子ども・若者・女性、その声を区政に反映していきたいということ。そして3つ目は、SDGs未来都市でもある豊島区としては誰も取り残さないように、すべての人とそれから行政だけでなく、企業とも連携しながら、一つでも二つでも明日を良くするように取り組んでいこうということで、この3つを柱に区政運営を進めております。今年作りました来年度予算案についても、これをベースに編成しております。

具体的な特徴でございますけれども、誰もがいきいきと輝くまちの実現に向けて、子どもから高齢者まで、区民の声を大切に、区民目線で考え抜いた予算と私は認識しています。キャッチコピーという感じでしょうか。

子どもから高齢者、障害のある方、それから外国籍の方も多く豊島区にはいらっしゃいます。いろんな方のいろんなお悩みや要望、こうしていきたいという思いはそれぞれあるかと思いますが、細かなところでまで目配りできるような、そうした皆さんの声を大事に、区民目線で考え抜こうということで作っております。

今まで必要なと思っても、そこまでなかなか目配りしきれていなかったような、規模は小さいかもしれませんが、細やかに見つめまして予算を組ませていただいております。

そして、その結果、一般会計の総額として初めて1,500億円台になりました。前年度から比べますと167億8,400万の増、当初予算で過去最大の規模を計上しております。

その次のページで、歳出・歳入の概要でございますけれども、歳出はこの色分けしている赤・ブルー・オレンジ、おのおの投資的経費、事業費、人件費ですが、いずれの区分においても前年度の当初予算を上回る予算規模になっております。

ブルーは事業費になりますけれども、新規拡充事業、この後ご説明いたしますが、積極的に取り込んでおります。先ほど申し上げたように規模は小さいかもしれないけれど、やるべきことはどんどんやっていこうということで、新規拡充事業をたくさん盛り込んでおります。約72億円の増となりました。

次にオレンジの人件費ですけれども、新規採用職員を180名、令和5年度の2倍となる、大幅な採用をいたしました。新規採用予定者が150名を超えたのは、なんと30年ぶりということになります。いろいろと新しい課題、新しいニーズが出てきていて、それに迅速に対応するためにはしっかりとした職員体制が必須ということで、大幅に採用を増やしております。

そして赤色が投資的経費になります。千川中学校の改築など区有施設の更新も入っておりますし、これからどんどん進んでまいります池袋の再開発、そうしたものもこの赤に入っております。前年度と比べまして71億円増の248億を計上しております。

右側が歳入です。これは他の自治体も同じ傾向ではないかと思っておりますけれども、特別区民税は定額減税の影響を見込みまして、前年度比で10億円減らし、323億円を見込んで計上しております。また、特別区財政調整交付金、こちらはですね、法人住民税の増加などによりまして、43億円の増となる379億円を計上してございます。

予算の中身ですけれども、見ていただきます通り、子ども家庭費、来年度も子育て支援にかなり力を入れていきたいと思っております、子ども家庭費が全体の23%、前年度からさらに44億円を積んでおります。その次が福祉で21%という状況でございます。

次が新たに取り組む、どんどん積極的にやっていくという新規拡充事業の分野別を見ていただきますと、これも子育て支援が36.6%、新規拡充事業は238事業、84億円を計上しております。前年度と比べて、新規拡充で予算に盛り込んでいる総額は約2倍。令和5年度の2倍、新規事業・拡充事業を積んでおりますけれども、そのうち最も割合が高いのが子育て支援、そして行政システムというのがありますけど、それを除くと、教育に力を入れて予算を計上しております。

行政システムは割合がちょっと大きいんですけれども、全国で実施するシステム標準化ですとか、あるいは戸籍法の改正などに伴うシステム改修というのが入っております。

システムの標準化はかなりお金がかかりますけれども、6年度と7年度の一時的な支出ということになります。国から相当額欲しいなと思っていますけれども、まだ示されておられませんので、区の予算とさせていただきます。

次からは、昨年始めました区民からの事業提案制度がどうなったかというご報告をしたいと思います。たくさんご提案いただいた中で、この6つが区民の投票で選ばれました。「公園の日陰化」から「外国人支援体制の強化」まで、6つを組んでおりますけれども、本当に素晴らしいご提案をいただいたので、それを実際に事業化していくには、各部署ともうんうん唸りながら、どうしたらいいかということで、だれどご提案の趣旨はできる限り生かしたいなということで、知恵に知恵を絞りまして、今回6つ事業案に盛り込んでおります。

具体的な内容でございます。細かいので後ほどご覧いただければと思いますけれども、上にご提案内容で、ぴかっと光っているのが事業案になっております。ご提案内容のままイケたものもあるし、ちょっと見方を変えてやらせていただいたものもあります。

まず一番上は「公園の日陰化」でして、これがですね、区民投票でもNo.1でございました。公園の砂場とかボール遊びをするスペースに日よけをつけてくださいとか、区内の公園に日陰を作るための何か工作物を設置してほしいというようご提案でございまして、確かにもう異常な暑さの中で、公園で遊ぶ子どもたち、そして見守るお父さま・お母さまを守るためにも、これはやらなければいけないなということで、いくつか予算に出ているのがですね、まずイケ・サンパーク。ひろい広場、芝生の公園がございまして、そこに少し大がかりなカッコいいテントをつけようかということで計画しています。またイケ・サンパーク入口のところがプロムナードになっていますので、そこにも常設のテントだとか、テーブル・椅子を設置して、暑い中でもひとやすみできるような、そうしたものを進めていきたいと思います。

また、地域でもたくさん公園がありますので、できるところから日陰タイプのパーゴラっていうんですかね、こう、格子状で草花が天井みたいになると綺麗なんですけれども、残念ながらならずにはですね、ただこの格子だけがある公園もありますので、そこにはちゃんと日陰になるようなものを作るとか、そうしたものもない公園には、やはりその日陰で逃げ場になるようなものを作るとかそうしたものをですね、できるところから、暑くなる前に取りかかりたいと思います。

そして三つ目にですね「未利用地の有効活用」というのをいただきました。まちを歩きますと柵でくくってあって、結構なスペースだけどいつ使われるのかわからないスペースがあって多分それを近隣の方は「何か使えないのかな」と思っている方が大勢おられるんだと思います。この柵で囲われている未利用地についても、どういうふうに使おうかなということをみんなで考えてみました。

子どもレターでも「遊び場が少ない」とか「ボールを投げられる場所はないですか？」とか、そうした声がたくさんあります。一方、豊島区は公園面積がもう23区のワーストワンということで、やはり子どもが遊べる場所の確保は本当に重要な課題だなというふうに思っています。

今回このご提案を受けまして確認しましたところ、道路予定地の他にですね、未利用地で、柵でくくってあるっていうのがですね、31か所ございました。その31か所を活用して、子どもが遊んだり、スポーツのイベントをしたりできないかということで、そうした機会を増やしたいと思います。

今、広さや安全性の観点から、どこからやるかというのを選定しております。これも早めに決めて、また地域の皆さまのご意見もいただきながら、例えば週に1回とか月に何回かは出張遊び場としてプレーパークをやるとか、それこそボールをバンバン投げられるような、何かそういうことを週に何回かやるとか、いろいろ地域の皆さまのアイディアとか、子どもレターの声とか踏まえて検討したいと思います。

あと3つありますけれども、そのうちで紹介しようと思っておりますのが、「外国人支援体制の強化」でございます。

これは豊島区にお住まいの外国人に対して、いろんな情報をワンストップで提供できるセンターを設置したらどうか、あるいは、いらしたばかりの方に必要な日本語教育とか、日本での生活の仕方、例えばゴミの捨て方とか、国民健康保険制度だとかいろいろあると思いますけれども、そうしたものをこういうものなんだっていうことを知っていただけるような、オリエンテーションが必要じゃないかというご提案をいただいております。

豊島区は外国人比率が新宿に次いで多い自治体でございまして、今年の1月1日現在で、全人口に占める外国人割合が11%超でございまして、3万2,700人ぐらいいらっしゃいます。そうした皆さまも同じ区に生活する区民で、仲間でございますので、そうした方たちが暮らしやすくご活躍いただけるような支援はやはり必要だなというふうに思います。

今は4階の区民相談のコーナーで週に何日か、曜日限定して、英語と中国語の対応を行っておりますけれども、今回ご提案を受けまして、来年度は平日毎日、11言語以上の多言語対応で、ご対応できる外国人の相談窓口を開設したいと思っています。

そこではさっきも申し上げました、いろんな生活する上で、これがどういうことか知りたいなと思うこと、あるいは知っていただきたい情報を一元的に集めて、必要なものをお持ち帰りいただけるような情報提供をしたいと思っておりますし、また多言語によるご相談をお受けして、多分いろいろあると思います、お子さんの学校の話だとか、例えば何か福祉のサービスのことだとかいろいろあると思いますので、一元対応できるような、あるいはそこから責任を持って必要な窓口におつなぎできるような、そうした外国人の相談窓口の7月の開設を目指して、準備を進めております。

また、文字だけでなく、多分動画の方が伝わりやすいということもあると思うので、わかりやすい生活オリエンテーションの動画を作成しまして、区のホームページのみならず、日本語学校ですとか、区内大学ですとか、そうしたところと連携して周知をしていきたい、外国籍の皆さまの暮らしやすい生活を全面的に応援してまいりたいと思っております。

ここからは、8つの柱の主な事業をご紹介します。

初めに「誰もが安全・安心に暮らせるまち」です。区民の皆さまの命と暮らしを守るといのはもう行政の基本中の基本でございますので、ソフトとハードの両面で取り組んでまいります。

まずは防災です。お正月に大きな地震がございまして、区としては、今年度一層気合いを入れて、災害対策を見直していきたいと思っております。いくつかありますけれども三つ目の「災害時要配慮者対策」、これは何としても進めていきたいと思っております。右側に4つイラストがございまして、まずは名簿の管理でございます。避難生活をする上で支援を必要とされる方が区内に約9,000人おられます。この方々の名簿を管理して更新するっていうのはもう一大事業でありますけれども、こちらの体制を整えて、町会や自治会など地域の皆さま・避難をサポートして下さる関係者と共有をしていきたいと思っております。そして、個別避難計画というのがありますけれども、避難の際に支援を必要とされる方、個別避難計画が必要だと思われる方が約5,000人おられます。令和6年度から3年をかけて、個々の皆さまの避難計画を作成したいと思っております。今年度は大正大学と連携をいたしまして、高田地区、浸水被害の恐れがあると思われる高田地域におきまして、先行的に実施しております。その先行実施の状況なども踏まえて、来年度から、他の地域でも個別避難計画の作成を展開して参ります。加えまして右下にありますけれども、「無事です」シールというのを作ってですね、ご自身あるいは安全確認をされた町会の方などが、ここのお宅の田中さんは大丈夫ですっていうのを扉などに貼っていただいて、それによってそこは大丈夫だ、他はどこを確認すればいいんだということで、いざというときに迅速に混乱なく、地域の皆さまの無事が確認できるようなこうしたツールも活用したいと思います。

この他ですね、新たにということでは私も猫ちゃんが2匹おりますけれども、「ペットの災害対策」も区民の皆さまの関心が非常に高いところでございます。石川県でも獣医師会がワンちゃんや猫ちゃんを預かっているということですが、ペットの災害対策としましては、今の救援センター35か所にはペット用の資機材がございませんので、ペット用の資機材を整えたり、また避難所でどういうふうに入受けするのかという動物受け入れマニュアルを全救援センターに配備をします。ただ基本的には飼い主が責任を持って、備

蓄や避難を行うこととなりますので、飼い主の皆さまを対象に同行避難訓練というの、複数回やりたいと思っています。

さらに「新耐震木造住宅の耐震診断・耐震改修の助成」も始めます。家屋倒壊を最小限にしなければならないという観点から、1981年から2000年に建築された新耐震木造住宅が区内には約1万5,400個ございますけれども、こちらを対象に耐震診断費用、それから改修の費用の助成を来年度からスタートをいたします。

ちょっと観点変わりました、防犯というカテゴリーです。幼稚園・保育所等の子どもたちを性被害からも絶対に守るという観点から、子どもスキップですとか、子どもたちが長くいる施設での性被害防止対策を、今もやっていますけれども、強化するためのパーテーションやカメラをつけていただく場合の購入費への補助も、来年度からスタートいたします。

次はですね、自転車のヘルメットです。昨年7月の補正予算で、それまでは中学生までなど対象を限定しておりましたけれども、おいくつの方でもということで年齢制限を撤廃いたしまして、自転車ヘルメットの購入補助を始めました。

1個あたり2000円の補助をしています、大変ご利用いただいています、4月から12月末までで882個ご購入いただいております。これは引き続き対応してまいりたいと思います。

そして、健康というのは安全・安心に暮らすベースでございますので、健康面の支援にも力を入れたいと思います。「がん患者の皆さまへのウィッグや胸部補整具の購入費の助成」ですが、値が上がっていますので助成額も増額します。

それから「歯周病検診」ですけれども、今は40歳以上を対象としていますけれども、25歳、35歳にも拡大して、若いときから歯医者さんに定期的に診ていただく、そういう思いを持ってもらいたいと思っています。私も3か月に1回通っていますけれども、区内では国や都に比べて、40代の方で歯周炎を有する割合が高いそうです。また近年は若年層でも罹患率が高くなっているということで、今は40歳以上ですけれども、25歳、35歳の方の検診を始めます。

下三つはワクチン接種についてです。带状疱疹ワクチンも6月から始めて、11月で3,000人を超える方に接種いただいておりますので、費用助成を継続します。また、男性のHPVワクチン、小学校6年生から高校1年生相当を対象に、接種費用3回分の全額助成も始めます。子宮頸がんワクチンも引き続き接種率が高まるようにPRをしていきたいと思っています。

次は「切れ目のない支援で子育てしやすいまち」です。新規拡充事業で最も額が大きいのが子育て支援でございます。

これは以前の記者会見でお示したかもしれませんが、生まれる前・生まれた時、生まれた直後そして特にお母さんの心身の負担が大きい1歳になるまでの間を切れ目なく、支援を充実してまいります。私の公約として掲げておりました「出産費用の実質無償化」も始めます。

経済的支援をはじめ、いろんなお悩みにも寄り添えるように、そしてまた、保育園に行っていないお子さん、在宅で子育てしているお父さんお母さんにも寄り添えるような、子育てスタイルに合わせた支援を行ってまいります。

主な事業でございます。「妊婦健診」については、妊娠期間を安心して過ごしていただき、出産準備をしていただく上で、本当に重要だと思います。特に双子ちゃん、三つ子ちゃんを妊娠された方は心身のご不安もいろいろとあろうかと思しますので、14回の健診を5回追加して、19回受けていただけるようにします。また、低所得の方については、初回の産科受診料を助成いたします。さらに、超音波の検査費用について今は1回助成していただきますけども、4回まで増やします。

そして、「出産費用の実質無償化」についてですが、国において保険適用に向けて検討も進むと思いますけれども、それまでの間は、区が独自に支援したいと思っております。支援の仕方についてはいろいろ考えたんですけれども、来年度に入ることができる限りすぐに始めたいと思ひまして、2月1日から始めた「子育て世帯への見守り訪問事業」、お子さんが4か月から11か月までの間に毎月支援員が訪問して「大丈夫ですか」「お悩みはないですか」「お辛い不是吗」とお聞きする事業がございますが、そちらにご登録いただいた方に、見守り訪問事業でも訪問すると3000円相当の育児用品が買える電子クーポンをプレゼントしているんですけども、それと同じ仕組みを使いまして、5万円相当の電子クーポンをプレゼントしたいと思ひます。

東京都の公的な病院で出産された場合にかかる費用の中央値を見ますと、「54万2630円」でございました。国から出る一時金が50万ということで、その差分の5万円を電子クーポンで区が独自にプレゼントして、出産にかかる費用として、お子さんが生まれた後は本当にいろいろとお金がかかると思ひますので、ご利用いただきたいと思ひしております。

生まれた後ですけれども、「産後ドゥーラ」を活用いただきたいと思ひます。産後ドゥーラは妊娠中から生後6か月以内のお母さんの心身が不安なとき、あるいは子育てに悩んだ時に、専門性の高いヘルパーさんが支援に伺うというものです。以前は里帰り出産があったり、生まれた直後は実家のお母さんが手伝いに来てくれたりということがあったかもしれませんが、コロナということもあって、そういうことができなかつたり、核家族化で誰にも相談できずに1人で抱えてしまうということがございますので、この産後ドゥーラについて、今は本当にお悩みが深い要支援家庭に派遣しておりますけれども、来年度からは一人親家庭ですとか、双子や三つ子のお子さんを育てられるご家庭にも拡充したいと思ひています。

また拡充するにあたっては、産後ドゥーラさんもたくさんいてもらわないと困るので、産後ドゥーラになるための養成講座の受講料についても助成をしております。

もう一つ、切れ目のない子育て支援についてご紹介をしたいと思います。

「産後ケアのための宿泊型の施設の利用拡充」と、泊まるのはちょっとという方でもご利用いただける「通所型デイサービスの産後ケア」を始めます。こちらは、生後4か月未満の赤ちゃんとお母さんに対して、助産師などの専門職が心身のケア、育児に対する指導、サポートを行う産後ケアです。これも非常に利用が増えております。

宿泊型の予約の利用枠を、今は年間517日分確保していますが、非常にニーズが高いため、1,100日に倍増し、産後ケアを必要とされる皆さんにご利用いただける体制とします。また、ご本人の負担額も、3,300円から2,500円に軽減いたします。今は宿泊型の施設7か所と契約をして使っていただいておりますが、来年度は区内の施設とも契約できました。

区内施設を含めて合計9か所、それぞれ産後ケアの特徴が違いますので、ご自身でここがいいというところを選んでいただいて、ご利用いただけるようにと思っています。

ちなみにこの「子育てエール」が先ほど申し上げた、4か月から11か月の間、毎月訪問する「子育て世帯への見守り訪問事業」ですけれども、2月1日に開始して、今646人の方にご登録をいただいております。

ちょっと長くなりましたが、子育て期の支援で、保育園、幼稚園の関係をご紹介したいと思います。

一つは「私立幼稚園の給食費の多子世帯への経済的負担軽減策」を始めます。

東京都が行う私立幼稚園の保育料の補助は、お兄ちゃん、お姉ちゃんが小学校3年生までの第3子については対象としますが、お兄ちゃん、お姉ちゃんが4年生になると第3子のカウントから外れていました。それを昨年5月から、お兄ちゃん、お姉ちゃんの年齢に関わらず、多子世帯については保育料の補助を継続するということになりました。ただ、給食費については緩和がされておらず、お兄ちゃん、お姉ちゃんが4年生になると、下の子は補助の対象から外れてしまうという状況でございます。そこで来年度から、豊島区としては独自に、その給食費の補助についてお兄ちゃんやお姉ちゃんの年齢制限をとっばらい、お兄ちゃんお姉ちゃんがいくつであろうと、保護者と生計を一にする兄弟がいる幼児については、補助の対象にすることといたします。お子さんが多いご家庭はいろいろと経済的なご負担がありますので、少しでも負担の軽減を図りたいと思います。

そしてもう一つですが、「認可外保育施設のご利用者への支援」もスタートします。国の指導監督基準を満たす認可外保育施設というのが条件になりますけれども、そこを対象に区の保育料の補助を行います。具体的には、企業主導型の保育事業が区内に10か所ありますが、社員のお子さんだけでなく、地域のお子さんも預かってくださっています。そうした企業主導型の保育事業について、区民の方がご利用する場合、都の補助に区独自の

上乘せを実施しまして、認可保育園に行っている方と同程度の負担でご利用いただけるように支援します。また、企業主導型以外の認可外保育施設につきましても、国の指導監督基準を満たす設備や運営をされているところについては、都の補助額を上限とした区の補助を開始したいと思っております。

次は「笑顔で元気なとしまっ子」になります。教育の観点です。

全ての子が将来への希望を持って、わくわく元気に育っていけるまちにしたいということとはとても強く思っております。教育そのものの充実も図っていかなければなりません。今日ご紹介したいのは子どもスキップの充実についてです。

子どもスキップというのは小学生の放課後の居場所でございます。全ての小学校の構内や敷地内に22か所ありまして、1日あたり2,000人を超すお子さんが毎日利用しています。

子どもスキップにはスクール・スキップサポーターを1人ずつ配置しております。特別な支援を必要とするお子さんに生活習慣の指導をしたり、見守りをしたりというようなことをしておりますけれども、なかなか大変だというような声も伺っております。来年度は全施設1名ずつ増員して2名体制でお子さんたちの見守りと支援を強化してまいります。

またICT教育については小学校の先生が使うデジタル教科書について、豊島区では英語でトライアルしてきましたけれども、来年度からは本格的に英語と算数と理科、この3教科で指導者用のデジタル教科書を導入いたしまして、子どもたちの学習内容の定着を促進したいと思っております。今後どう増やしていけるかは少し状況を見て検討してまいりたいと思っております。

そして、「学習情報センターの環境整備」です。学校の改築は計画的に進めてまいりたいと思っておりますが、当面改築や改修の予定がない・予定が立っていない学校もございまして、そういうところでも学習できる環境をしっかりと整えられないかということで、図書室に電子黒板を配備したり、また学校司書の配置を拡充するなどによって、子どもたちは1人1台タブレットを持っているので、それも活用しながら、図書室などが学習情報センターとなって、子どもたちが自発的かつ主体的に学習活動を進められるような環境の整備、支援の強化を図っていきたく思います。まずはトライアルでやってみたく思います。

子どもの関係でもう少しお話をいたします。

来年度は障害児それから、医療的ケアが必要な子どもたちの支援を手厚くやっていきたいと思っております。思っているところでございます。

まず障害児の支援、一番上に「東部・西部障害支援センターにおける障害児相談支援の開始」とございます。障害のあるお子さんが児童発達支援ですとか、放課後デイサービス

などのサービスを受けるときには、相談支援専門員がお会いしてご相談を受けて、その子に合った支援利用計画を作成することになっています。

ご相談に基づいて、通所の支援をどうするか、放課後のデイサービスをどうするかなど計画を立てて、その計画が開始した後も、一定期間ごとにサービスを増やすか、また別の形にするかといったご相談をお受けし、必要な支援に切り替える、あるいは継続するといったことをやっておりますが、区内には残念ながらそうした障害のあるお子さんの相談支援を行う事業所が8か所ということで少なく、障害のあるお子さんのうちの約7割のご家庭では、ご家族がプランを作っている状況にあります。

本来はやっぱり専門の支援員が十分にお話を聞いて、本当に必要なところ、必要な回数、必要なやり方というのをご助言申し上げる必要があると思っております。

そこで、東部西部それぞれ障害支援センターでは今は18歳以上の障害のある方のご支援を行っているんですけども、障害のあるお子さんに対しても相談の支援、寄り添える支援ができるように、対象を拡大して実施してまいります。

また、医療的ケアのお子さんたちへの支援ということですけども、二つ目に、「障害児通所支援事業所（重症心身障害児等）開設時の家賃補助」というのがありますけれども、障害児通所支援事業所は区内に39か所あるんですけども重症心身障害児や医療的ケアを必要とされるお子さんを受け入れてくれる事業所は1か所のみでございまして、多くの皆さんはどうしているのかというと、他の自治体にある事業所に通っておられます。

できるだけ区内で重症心身障害児の方も、区内で療育を受けられる環境を作りたいということで、「区内に開設してもいい」という事業所をできるだけ応援したいということで、事業所を開所する際の家賃3か月分を補助する、あるいは医療的ケアを必要とする方というのは電源が必要な医療機器も使用されていますので、いざというときの電源を確保するための発電機の購入費用とか、事業所を開設するときに必要なものを整備しなければいけないものについて補助をして、区内に事業所を増やせるように取り組んでまいりたいと思います。

最後は、社会的養護等についてです。「児童養護施設退所者等への相談支援、経済的支援（給付型奨学金等）」ですけども、今年度から施設や里親の元を離れて自立する子に対して、家を借りる支度金とか、大学などの入学に関する給付型奨学金を始めたところでございます。利用したいというお声も上がっております。

来年度はこれに加えて、色々不安がある、施設を出た後もいろんな相談をしたい、そうした方たちに寄り添えるように、退所する前から、あるいは退所して一人暮らしをしているときにも、定期的あるいは相談があるときに対応できるように、専門の支援コーディネーターを配置します。

自立していこうとする子の孤立を防いで、応援をしていきたいと思っております。

次はアートカルチャーです。

コロナ禍があけて、国内外から多くの皆さまに豊島区に来ていただいております。豊島区の多様な文化、また地域ごとにあるいろんな文化資源を、国内外にどんどんその魅力を発信していきたい、そしてますます豊島区に賑わいを作っていきたいと思ひまして、来年度は「シティプロモーション」に力を入れたいと思っております。

シティプロモーションはいろんなやり方があるかと思ひますけれども、今豊島区はありがたいことにマンガ・アニメ・コスプレで勢いづいておりますので、関連企業とも連携しながら、マンガ・アニメ・コスプレを素材にしながら、プロモーションを展開してまいりたいと思ひています。

例えばアニメを使って、SNSとかデジタルサイネージあるいは、商店街のフラッグなどは今もやっておりますけれども、そうしたものもどんどんやっていきたいし、あるいは人気のアニメキャラクターと、私たちの事業、重点事業とのコラボ、例えばすずらんスマイルプロジェクトとアニメのキャラクターが組むとか、あるいは里親さんの支援と何かのアニメが組むとか、いろんな事業とマンガ・アニメ・コスプレを組みながら、シティプロモーションを展開していきたいと思ひています。

それからスポーツですね、この「スポーツのチカラで子どもたちの健康な未来を築こう」というのは区民提案でいただきました。

トップアスリートと子どもたちが交流するとか、あるいは障害があっても、障害がない子と一緒にサッカーができるとか、そうしたいろんな工夫で、どんな子どもたちも体が動かせる、そこでお友達にできる、そうした取り組みを区民提案をもとにやってまいりたいと思っております。

右下に小さくありますのは、10月1日にオープンする千早スポーツフィールドです。完成したら皆さまにもご案内をしたいと思ひますけれども、サッカーの国際規格に対応する広い運動場を整備しますし、ラグビーやフットサル、少年野球もできる、テニスコートも2面あるということで、非常に素敵な運動施設ができますので、また取材をお願いしたいと思ひます。

次は「高齢者」です。

高齢者の皆さまが住み慣れたまちで、いつまでも元気に安心して暮らし続けてほしいと心から思っております。総合的な対策を来年度も展開してまいります。

今日申し上げたいのは、お風呂と、エアコンと、相談窓口についてです。お風呂は健康にもいいですし、特に公衆浴場はそこで多世代の方々と触れ合える、コミュニティの核でもあるので、どんどん行ってもらいたいなと思ひているんですけれども、豊島区では「おたっしゃカード」というカードがあって、それを見せると、区内の公衆浴場で65歳以上の方は100円で入浴できます。

非常に人気があり、年間で9万回ご利用いただいております。これをもっと増やしたいと思ひまして、年間の利用回数を10回増やして、40回ご利用いただけるように拡充しま

す。それから、これはかねてから非常に課題だったんですけども、高田地区というところは区内の近くに公衆浴場がないんですね。道路を隔てた文京区、すぐそばにはあるんですけども区外のためご利用いただけなくて、文京区の公衆浴場を利用するときは500円払わなくてはならなくて、「100円のおたっしゃカードが使えない」ということでしたが、今回ですね、公衆浴場組合の皆さまのご理解を頂戴しまして、高田地区においては区を越えて、文京区のすぐそこにあります公衆浴場をご利用いただけるということになりました。なので、高田地区の皆さまも100円で、近くのお風呂に入っただけということになります。

それと入浴特化型というのはですね、一人暮らしで入浴が困難な要支援者の方を対象に、送迎付きの入浴だけに特化したデイサービスです。普通デイサービスといいますと、一日居たり、いろんなものもあるのかもしれませんが、お風呂が心配だっという方についてはお迎えに来てもらって、お風呂のサービスを受ける。そうした入浴特化型デイサービスというのを来年度からスタートいたします。

高齢者の最後はですね、ここにマップがございますが、駒込に地域包括支援センターのランチ（相談窓口）を作ります。

高齢者の皆さまのご相談は、区内に8か所ある地域包括支援センターで対応しておりますが、駒込地区はちょっと遠いんですね。南大塚にある東部地域包括支援センターの管轄ということで、行く方も大変だし、来ていただくのも大変だしという状況でしたので、来年度これもできるだけ早くですね、駒込地区にも相談窓口を設けて、近いところで継続的に対応できる体制をとりたいと思っております。

一つ飛ばしましたけれども、高齢者の方の熱中症予防の観点で、低所得の高齢者の方にエアコンを設置していただくということで、今年は本当に殺人的に暑かったので、高齢者の皆さまに具合悪くなってもらうと困りますので、低所得の方、75歳以上の住民税非課税世帯の皆さまを対象に、8万円を上限として、エアコン購入費の助成をいたします。そこでのやり取りを通じてですね、生活状況とか体調だとか、そういったところも把握して、エアコンもつけるけど、こうした介護サービスも使ったらどうですかというような、そうした支援にも結びつけていきたいと思っております。

次は「産業振興・商店街」です。

プレミアム付地域商品券事業を令和3年度からやっております。各商店街が独自にプレミアム付商品券を発行していますが、どの地域もすぐ売れちゃうっていうぐらい大人気でございます。こちらを来年度も継続いたします。

そして産業振興ということでは、「中小企業支援の充実」を図りたいと思っております。今、としまビジネスサポートセンターでは各種の専門相談員が、いろんなご相談を受けているところですが、更なる支援の強化ということで、中小企業の販路拡大、経営改善、新商品開発を支援する補助金を新たに作ります。

またこの支援に当たっては、補助金の活用コーディネーターという方のご協力をいただいて、そのコーディネーターが、個々の事業者の方の経営状況をしっかり伺って、これがいいんじゃないという最適な補助メニューをご提案していきたいと思います。

最後が「空き店舗活性プロジェクト」ということで、区民提案の事業でございます。ぽっかり商店街の中で開いている場所を有効活用できないか。素敵な店が入れば、商店街も盛り返すんじゃないか、賑やかになるんじゃないかというご提案でございました。

こちらも実施に向けてはいろいろ難しいのかもしれませんが、やってみようと思っております。区内の空き店舗に出店希望される方を募りまして、店舗の整備費、それから賃借料補助を区が行います。そしていきなり地域にいらしても実情がわからないかもしれないので、その地域を十分把握しているコーディネーターを区が選定して、そのコーディネーターに開業前から開業後まで伴走支援をしていただくということですね、すごいチャレンジングなんですけれども、商店街の活性化というのは区の大きな課題でもありますので、やってみようと思っております。まずはどこの商店街の、どの空き店舗でやるかということを決めなければいけないので、商店街の皆さまや地域の皆さまといろいろな意見交換をするところから、スタートしたいと思います。

次は「環境」です。

本区はゼロカーボン宣言をしておりますので、これにも力を入れております。

一つ目は「省エネルギー機器・設備等の導入費用助成の拡充」ということで、太陽光発電システムなどの省エネ機器などの助成をしておりますけれども、これもですね非常に区民事業者の皆さまが自分ごとと捉えて、ご利用いただいておりますので、予算総額を令和5年の1600万から3200万と2倍に増額して、更なる呼びかけを図ってまいりたいと思います。

またマイボトル給水機の設置を、プラゴミを減らすというのと、熱中症対策ということで始めました。区民ひろばなど31か所に設置をしまして、すごく利用されております。それを来年度は図書館とか、障害者施設とか区民事務所にも広げまして区内45ヶ所にマイボトルの給水機を設置してまいります。

加えて、薬剤師会にご協力をお願いしまして、地域にあります薬局さんを涼みどころとしてご指定をさせていただいて、薬局を利用する・されないに関わらず、利用されない方も暑いなっていうときは、薬局に寄れるような取り組みも、こちらマイボトルとは関係ありませんけれども、取り組んでまいりたいと思います。

それと環境の最後は公衆喫煙所の設置なんですけれども、令和4年度に設置費用の補助を始めましたけれども、設置した後もお金がかかるんじゃないかということもあって、今年度から維持管理費も対象にしています。

今月中に1か所喫煙所ができることになっているんですけど、この制度を始めてから2か所目ということで、なかなか進まないところもあるので、思い切って来年度は設置助成額を倍増して、民間事業者による公衆喫煙所の設置を促進してまいりたいと思います。

まずは場所をどうするかとかですね、いろいろあるんですけど、所管課ではご相談を受けているようなので、思い切って倍増してやってみたいと思います。

課題の最後は「ウォークブルなまち」ということで、これは拡充・継続ということではなっておりませんが、検討が少しずつ進むもの、あるいははいよいよ一歩一歩大きく進んでいくものとそれぞれございます。

私たちが目指しているのは、池袋をはじめ「回遊性のあるまち」、車じゃなくて「人が主役になれるウォークブルなまち」を作っていきたいということです。

一つ目は「池袋駅周辺都市再生推進」になりますけれども、池袋駅周辺の将来像を描いた池袋駅コア整備方針というのを、先般記者会見でもご報告しました。それに基づきまして、東西を繋ぐデッキ、これは実現を目指してますとということを言い続けておりますけれど、まだまだ時間がかかりますけれども、これを目指すと。それから「池袋副都心交通戦略[東口駅前再編]推進」、「池袋駅東口街区再編まちづくり推進」というものもあります。

池袋駅東口駅前の環状5の1号線、これが開通した後の明治通りのクルドサック化。これもよくイラストでお示ししていますけれども、それとグリーン大通りの歩行者の広場化、これに向けた検討を着々と進めていきたいと思っております。

また東口の街区再編まちづくり推進というのもございます。駅前広場の隣接街区において、地権者が主体となってまちづくりが進んでいきますので、そちらを行政としても支援をしてまいりたいと思います。

さらに一番下の「東池袋駅周辺まちづくり推進」、これも先般の記者会見でご報告を申し上げました。東池袋駅周辺のまちづくりをどうするかということについてはこれまでで示していなかったんですけども、まちの将来像と、こういうふうに取り組んでいこうという東池袋駅周辺まちづくり方針というのがようやくできます。まずはその駅周辺の交通結節機能強化に向けた検討を進めていきたいと思っております。都市整備部が張り切ってやっておりますので、ぜひぜひご取材いただくとありがたいと思います。

ウォークブルということで、少し身近な観点からいきますと、来年度は「福祉のまちづくりガイドマップ」を作りたい。バリアフリーマップですが、これを作りたいと思いません。これはかつて平成22年に作って、28年度まで「ここがバリアフリーになった」という更新をしてきましたが、止まっておりました。さらにここ数年、池袋を中心に、まちが変わってきているので、高齢者、障害のある方、それから乳幼児を連れていらっしゃるファミリーの皆さまが安心してまち歩きを楽しんでいただけるように、来年度は改めて区内のバリアフリー情報を徹底調査をしたいと、それをWeb版のマップにして公開をしたいと思っております。

またマップの作成にあたり、当事者の方、車椅子の方とか小さいお子さんのいらっしゃる方とか、高齢者の方からのお話も聞いて、どうせならこういう情報があった方がいいとかですね、あるいはあんまり細かいとかえって見にくいとかですね、当事者の方のお声を聞いて、使いやすいものにしたいなと思っています。

そして、「としまベンチプロジェクト」は区民提案でございます。これも多分ウォークアブルにつながるんだと思うんですけども、歩いていらっしゃる時に、街中でひょっと座れるベンチがあるといろんな人とお話もできるし良いなとか、ここは休めるところが何もなくて距離があるので、ちょっと座るところがあると良いなとか、そうした街中で「ここがあると良いな」というベンチを、しゃれたデザインのものを設置できるように、それが一息ついてもらうとともに交流の機会にもなるようにしたいと思います。

そうした素敵なイメージをご提案いただきましたので、できるだけそれにお応えできるような優しく、かっこいいベンチを増やしていきたいなと思います。

最後は「公園アドバイザーの活用」なんですけれども、区内には163の公園が、大きいところから小さいところまであります。それぞれ鉄棒が古くなったり、遊具が壊れたりしたら取り替えということで、区民の皆さまが危なくないように、修繕していますが、それはそれとしてやるとしても、豊島区は山もありませんし緑も少ない、区民一人当たりの公園面積はワーストワンということからすると、小さくても、たくさんある公園をもっと素敵に、子どもから大人まで楽しめて、憩えて、魅力的な公園にしたいなと思ひまして全体のプランを一度作ってみたいと思っています。

場合によってはですね、こっちの公園は、鉄棒とか全部取っちゃって、もう何にもないけどベンチがあってゆっくりする公園。すぐ近くにある公園は、キッズパークにあるみたいなかわいい遊具があるとか、あるいはこっちの公園は気持ちの良い親水公園であるとか、何かそういう特徴があるようにしてはどうか、全部の公園に同じものがある必要はないと思うし、例えば何もなくなったらどんどん走り回れたり、ボール投げられたりもできるかもしれないということで、ちょっと時間はかかるかもしれないんですけども、来年度から公園のアドバイザーをお願いして全体のプラン、やっぱり区民の声も大事にしたいので、区民の皆さまと一緒に考えながら、公園づくりというのを進めていきたいと思ひます。

本当の最後です。

今まで8本の柱でやりましたけれども、今度は横というんでしょうか、あらゆる人が主役になれるまちづくり、年齢、性別、国籍、心身の状況、経済的な状況、それぞれ皆さん違いますけれども、どんな方もいつまでも安心して暮らし続けられる、そうしたきめ細やかな支援ができる豊島区でありたいというふうに思っております。

そういう観点から、どんな方にも寄り添える相談体制の強化を図りたいということを最後に申し上げたいと思ひます。

外国人の支援体制強化については、先ほど申し上げた通りです。

「女性専門相談の拡充、LGBTQ、男性向け相談の新設」ということで、DVが減らないですね。DVをはじめ、女性相談の回数は増やしたい、それからLGBTQ関係の相談と、男性の相談を始めます。男性もですね、自分らしい生き方に悩んだり、男らしさを求められて苦しんだり、いろいろあると思いますけれども、そうした男性やLGBTQの相談を始めたいと思っています。

また障害のある方についてもですね、先程のバリアフリーマップもそうですけれども、きめ細かに情報提供できるような、そうした体制も整えていきたいし、力を入れている若年女性のすずらんスマイルプロジェクトも、継続してやっていきたいと思っています。

また、熱中症対策には本当に力を入れなきゃいけないと思っているので、熱中症で倒れないように先程の高齢者と合わせて、生活保護世帯にもエアコンの設置助成をしていきたいと思っています。

どんな状況でもどんなお悩みがあっても、孤立させない。安心して住み続けていただける、そうした取り組みをきめ細かにやっていきたいと思っています。

以上で、主要な事業のご説明をさせていただきました。事業一覧はこのページの後に全部ついております。そちらもご覧いただきまして、各所管には積極的に取材を受けるようにと言っておりますので、どんどんご連絡をいただけると嬉しく思います。

では、1時間にもわたり長く聞いていただきましてありがとうございます。こうした思いと内容で、来年度予算案の編成をしております。どうもありがとうございました。

【質疑応答】

日本経済新聞

池袋駅周辺の再開発について、西口、東口、東池袋それぞれちょっとございますね、聞いて参ります。まず西口についてなんですけど、先日準備組合の方から、計画の概要に記載、西口駅前の計画の内容についての評判なども公表されまして、3層のビルが建つような内容となっております。まずそちらの計画に対する高際区長のご感想と、あとその都市計画決定、来年度を目標にするというような内容になっているかと思いますが、それに対して本区としてどのように関わっていきたいとか、どう考えていらっしゃるのか、そちらについてお聞かせください。

高際区長

はい、西口についてはですね、いよいよ動き出すというところで、ご案内の通り、今年度、東京都に都市計画提案を出されるということです。通常は大体半年ぐらいで順調であれば決定が下りるということで、いよいよ動くんだなということで西口の皆さんも非常に

気持ちが盛り上がっておられます。一方、動き出しますけど、できるまでは10年～15年ぐらいかかるとお思いますね。その間にやっぱり賑わいというのを途絶えさせず、再開発は再開発として進めながらも、やっぱり賑わいのある池袋西口っていうことにしていくのが重要だと思しますので、地域の皆さまとか、それからデベロッパーの皆さまとか、もちろん行政も共にですけれども、賑わいづくりというのをこれから並行してやっていきたいなと思っております。

池袋西口だけじゃないんですけれども、エリアプラットフォームというのができていまして、サンシャインシティの合場社長をトップにして、80以上の企業だとか関係者が参画して池袋全体をどういうふうなものにしていくかという検討をされています。未来ビジョンっていうのを作られていて、こういう再開発自体は今やられているものがベースかもしれないんですけど、こういうふうな賑わいを、公共空間はこうやっていくんだというような未来ビジョンをお作りになっていますので、そこにはもちろん区役所も入っていますが、そうしたエリアプラットフォームとの連携などもしっかりしながらですね、私としてはもちろんハードが着々と進んでいくことは行政として、しっかり見て、しっかり支援していくとともに、そのソフトっていうんでしょうかね、賑わいづくりをどんなふうに展開していくかということも非常に注目しているし、期待しているし、区としても頑張っって一緒にやっていきたいなと思っております。

日本経済新聞

内容と言いますか、そのホテルに入るオフィスだったりとか、ホテルだったりそういったもの、いろいろありますけど、そちらの中身に対してはどのような感想をお持ちですか？

高際区長

そうですね、色々な議論の中で今の形になっているということですし、あと西口のグローバルリングのあたりとか、芸術劇場のあたりなんかは、今よりももっと素敵なウォークアブルな広場になるというふうに伺っているので、全体として非常に期待しているところで

日本経済新聞

続いて東口の方も質問させていただきたいんですけど、西口がそうやって計画が実現化するようなところまでできましたけれども、東口の方はまだ準備組合になりできてないような状態で、その交通戦略だったりっていうところ、今後議論が進んでいくんだろうと思っておりますけども、スケジュール感だったり、どのような何かここを交通広場化に進むにあたっての何か目安の時期など、何か目標となるものはありますでしょうか？

上野副区長

具体的なスケジュールとして、環状5号線の1の整備が一つの目安になっておりまして、それができた後に、明治通りを走って通過している車が、環状5号線の1の方に転換されて、そして今の駅前広場の再編ができるということなので、ちょっとその辺の環状5号線の1の完成を狙って検討を進めていくということを今、念頭に置いております。

日本経済新聞

ありがとうございます、すいません最後です。東池袋なんですけども、様々な大学が誘致されたりとか、その住民をそちらにも新たなマンションを作ったりというところで、計画も出てくることかと思うんですけども、それで人流ができてくる中で、改めて副都心線の東池袋駅の新設について、コロナ禍前、開業の目安とされているような、5万人に届くか届かないかまで来てたかなと思うのですが、改めて東京メトロに対して副都心線東池袋駅を求めていくかどうかについてどのようなお考えか教えていただけますでしょうか？

上野副区長

5万人という一つの数値の目安が示されていたようですけども、現状5万人の規模が乗り降りしているのが東池袋駅あのメトロの東池袋駅で、コロナ禍前で大体5万人に近づくんではないかと言われていたんですけども、コロナ禍では、東池袋駅は大体コロナ禍前の6割ぐらいまで落ちたところです。

それでメトロの方の見解では、その東池袋駅に加えてさらにそういう5万人という需要が必要ではないかということなので、そういったものを、まさに今の現状のまちづくりの動向の中ではまだそこに至るようなものにはなっていないようですから、今後は東池袋駅周辺のまちづくりの方針なども踏まえてさらにまちづくりを進めていって、さらに需要を創出していくということが必要かと考えておりますので、そういった取り組みの中で時期を見ながらメトロの方にも働きかけを、さらにやっていくということを想定しております。

毎日新聞

区民からの提案で実現する6事業の総事業費などわかれば教えていただきたいのと、あとその6個の事業の中で、今すぐに取り組みたいと思っているのがあれば教えてください。

高際区長

総事業費はですねちょっとお待ちください。

今すぐ取り組みたいのはですね、実はこの6つの事業は私もやりたいなと思っていたことばかりなので、全部と言っていいでしょうか。特に外国人支援のところはね、これはやらなきゃなと思っていましたし、あと未利用地もね、もっともだと思います。毎日お住まいになっていて、ずっと柵か何かで囲われていて、というのもどうか。確かにあそこで子どもが遊べないのかしらと思うのも当然だと思うし、私も一昨日ですね、東長崎の方をちょっと歩き回りましたが、（未利用地が）あるんですよ。だからああいうところの有効活用っていうのはやっぱり引き続き考えていきたいと思っています。

またスポーツもね、私は音楽もスポーツも子どもたちには本物体験っていうのかしらね、本物のオーケストラの音楽を聞くとか、すごいミュージカルを見せるとか、あるいはプロのアスリートが教えてくれるとか、あるいは東京都交響楽団の楽員がチェロを教えてくれるとか、何かそういう体験を子どもたちにしてもらいたいなと思っていたので、この「スポーツのチカラで子どもたちの健康な未来を築こう」というのも非常に賛同いたします。なのでいずれもね、大事にしっかり事業化を図っていきたいと思います。6つの総事業費は、5000万円弱になります。

朝日新聞

今回の予算の中で、豊島区らしい課題、豊島区ならではの課題に対して、対応している予算を一つ挙げるとすると、どれになりますでしょうか？

高際区長

そうですね、どれもこれもなんですけど。ちょっと一つは難しいんですけど、子どもと高齢者でいきますと、子どもはずっと切れ目ない支援というところでやってみましたけど、生まれてから直後の産後ケアとか、産後ドゥーラとか、生まれた直後から数か月の赤ちゃんとお母さんをしっかり支援するというのは今回力を入れたところです。

先ほどお話ししてなかったんですけど、パパの支援も始めます。今年度からパパたちの、この中にはパパもいると思いますが、市内のパパにも聞こうと思っているんですけど、男性の産後うつとかも結構あったりして、「育休取るんだけど、何していいかわかんない」とか、いろんなお悩みもあるということなので、パパのアンケートもして、妊娠期から特に生まれた直後の間までですね、ハードな状況にある奥様を支えられるようにパパの支援を始めます。その生まれた直後、数か月のところに力を入れたっていうのは今回（特徴として）あるかなと。

それから高齢者はですね、お風呂ですね。さっき申し上げた公衆浴場組合の皆さまも力を入れてくださっていて、単にお風呂に入るだけじゃなくて、そこがやっぱりコミュニティの核だと、だからそこで子どもたちと交流できるようなイベントもやりたいとか、いろんなご提案をいただいていますので、公衆浴場を心身の元気の発信拠点のような形で、そ

れから入浴に支援が必要な方は迎えに来てもらって、お風呂に入りに行けると。そこでサービスの方との交流も生まれますから、そこに力を入れてます。

朝日新聞

もう一点なんですけれども、悩んだ末に今回は残念ながら見送った事業として何かご記憶あるものがあれば教えていただけないでしょうか。

高際区長

基本的には入れているかと思いますが、そうですね、本当にどうやるのっていうところが最後なかなかイメージできずに、見送ったのがあるんですけども、その後そういうことかと合点がたって、それは運用の中でやろうというのがあります。

あとはですね、職員の働き方改革の面で、本当はもっといろいろデジタル化は進めたいと思うんだけど、そこはやっぱりもうちょっと経費をしっかりと見なきゃいけないとか、あともう日進月歩でどんどんいいものも出てきたりするから、どこまでやるかを考えなくてはいけないとか、あとはシステムの標準化があるので、結局今何かを作っても無駄になっちゃうのかしらとかですね、いろんなのがあって、デジタル化のところは本当はもうちょっとできるといいかなと思っておりました。

NHK

区民からの提案制度についてなんですけれども、2点お伺いしたくて、今年度6つの事業について予算化されることになったかと思うんですけれども、来年度も引き続きというか元々1000万円の上限でというところでやってらっしゃったところで、もっと拡充してやっての方がいいよねというふうなことで、今区長として心に決めてらっしゃることがあればお伺いしたいです。

高際区長

6つの事業はいずれも単年度ということで、募集しているんですけどね。例えば公園の日陰化なんかは、162か所全部は今年度できないので、そこは計画的にやっていくっていうこともあるでしょうし、外国人支援は始めたらもうやめないですよ。窓口設けたら。未利用地も今回は何か所と決めても、まだこっちもあって、ここは交渉が難しくできてないけど、粘り強く調整したら使えるようになるというところもあると思うので、なので単年度ということで始めたんですけども、今回のご提案を根っこに、区政に良い意味で根付いていくというか、そういうようなものばかりではないかしらという気がしています。

このままやるかどうかわからないんですけども、1年やってみて、少し工夫しながら、区としての新たな事業ということで位置付ける可能性もあるんじゃないかな、それくらい本当にね、事業化は難しかったんですけど、いいご提案だったなと思っています。

NHK

ありがとうございます。区民からの事業提案制度っていうのは、来年度以降も新規の事業を募集して続けていかれるのかどうかについても伺います。

高際区長

続けます。

NHK

ありがとうございます。

東京新聞

ごめんなさい、私は豊島区さんに初めて伺ったので、一つ教えていただきたいんですが、子どもスキップというのは学童クラブとは違うんですか。

金子教育長

子どもスキップは学童クラブですが、いわゆる児童館機能、どんな子が来てもいいよというのを合わせて設けておりますので、学童さんは全員集まっております、プラス別の部屋も含めて、どんな子が来て遊んでもいいよと、一緒に遊んでもいいよというふうになっております。全部の学校にあるという形です。

東京新聞

そうすると、この幼稚園保育所等における性被害防止対策事業の中の子どもスキップというのは、誰もが居場所もそうだし、学童クラブの居場所も両方という意味か？

金子教育長

まだちょっとどういうものを入れるのが一番効果的とか、場所をどうするというのは検討中ですが、全てにわたってということで考えてます。ですから普通だと例えば児童館が独立してあるとして、学童クラブも入ってくるというところでどういう対策を打つかっていうのと同じだと思っています。

東京新聞

改めて区長に、冒頭ご説明あったんですけども、この予算規模が史上最大というところの、感想といいますか受け止めといいますか、そのあたりについて伺います。

高際区長

一つは新体制になって、改めて今まで各部署で本当はこれやりたかったんだ、あるいはコロナでいろんな課題がある中で、やっぱり踏み込んでやった方がいいよっていうものはもう全部出そうということで始めました。その中でこれとこれは一緒にやったらいいんじゃないとか、これはもうちょっと（様子を）見ようっていうのもありますけど、とにかくもう小さいことでも全部出そうということでやっています。

ですので、さっき障害児の支援を少し細かくご説明しましたけれども、対象者が少なからうが、対象の経費が少なからうが、必要なものはしっかりやってこうということで事業数はかなり多くなっていると思います。それともう一つはやはり子育て支援ですね、国ももうここがラストチャンスということで、少子化対策をやっていますし、東京都の小池知事が、国を超えるがごとく今子育て支援をやっていくんだということでアクセルを踏まれている。

なので、私達もやっぱりアクセル踏むなら今だと思って、できることは全部やろうという気持ちで組みましたので、冒頭申し上げた子育て支援が相当増えているということになっています。来年度以降ですね、全部を継続するかっていうのはわからないです。

やってみて、よりしっかり検証しなきゃいけないし、プラス今までやっていたものを、もう1回ちょっと来年度はですね、一つずつ見直してみようと思っているんですね。

大体区役所がやることというのは、始めるとそれがずっと継続して、新しいものが乗っかっていくという傾向にありますけれども、やっぱり時代によって、またコロナを挟んで、これまで必要だったことがもし薄れているのであれば、そこはメリハリをつけて止めて、新しいことに金も力を注いでいく必要があると思うので、その点は来年度、現行の事業についてはしっかり見ていきたいと思っております。

今年度増えた理由は先ほど申し上げたような、2点かなと思います。

豊島新聞

一番聞きたいのは、あのベンチのやつですね。ベンチの方が区民全部が豊島区のリーダーが変わったよっていうPRするのに一番いいような気がするんですよ。だからその規模とスケジュールを聞きたいなと思いました。金額じゃなくね、何箇所ぐらいなのか。

高際区長

アイデア次第と思いますが、そんなにお金がかからないと思うんですよ。だからどんどんやりたいと思っています。

さっきもちょっと申し上げましたが、東長崎に行ったらですね、アパートの軒先なんかにはすごく居心地がいいのを住民の人が作ったって言っていましたが、だからここにこういうのを作ったらいいんじゃないっていうのがあちこちで盛り上がってきて、「すごい！

やってみよう！」というふうにできるといいと思うので、私はできるだけどんどんやりたいと思っています。

豊島新聞

ありがとうございます。そのやるときに、何て言うの、区民を巻き込む形で、役所でここだとかって言わないで、町会とか商店街とかに一応おふれを出して提案してもらえればという形で作ってほしいなと思いますけれども。

高際区長

もちろんでございます。これがですね、地域でウォークアブルなまちづくりを区民目線で考えてもらうすごくいいチャンスだと思っているんですよ。

ここ歩くでしようってなると、ここにあるといいよねとか、ここだと逆に邪魔だよねとか、ここはちっちゃい子も結構来るからこうだよねとか、というのを、みんなで話してもらって、本当にまちづくりの良い機会だと思っているので、最終的にベンチがいくつできるかわかりませんが、すごくいいステップになるっていうか、きっかけになると期待しております。

天貝副区長

高田の地区ですね、ベンチプロジェクトを最初にやっています、それは民生委員が中心になっていったので、こういった部分の福祉的な視点では社会福祉協議会のCSWも関わっていますので、そういった部分もですね取り組んで、全区的に展開したいと思っています。

都政新報

細かい部分で大変恐縮なんですけど、高齢者のエアコン設置について、今回新規の予算で高齢者のエアコン設置を補助するということで、今後の見通しに令和6年度実施・検証し、7年度以降の事業継続を判断するって書いてあるのに対して、生活保護世帯のエアコン設置助成が単年の事業となっている。その違いがもしあれば、ちょっと教えていただきたく思います。

高際区長

生活保護世帯はですね、実は一度やったんですよ。無いお宅を調べてね、それでエントリーしてもらったりしたんです。ですが、エアコンが好きじゃないとか、つける場所がないとかということで、ある程度はつけていただいたんですけども、残念ながらまだというところもあります。今年度は、もうラストチャンスの思いでやりたいと思っているんですね。

一度やったときに、このことも踏まえて既に調査はして、「どうしてつけなかったんですか」とかいうことも伺ったりしているし、あとはケースワーカーが日頃からお付き合い・支援させていただいてるお宅なので、どういう世帯かとかはわかっていることもあるので、夏はものすごく暑いですし、2回目になるので、やるのであれば集中してやりたい。

高齢者世帯も同じなんですけどね、エアコン嫌いとかおっしゃる方もいるけども、暑さがハンパないので、できるだけつけられる方とは思っていますけど、ただ高齢者についてはどんどん高齢者になって（75歳以上の方が増えて）こられることもあるので、どのくらいの規模になるかあれですけども、そちらは様子見ながら。生活保護はそんなことで、2回目のトライということになるので、集中してやりたいなと思っています。

TOKYO MX

今回、過去最大の予算規模の中で6つの事業、区民の思いを予算案に入れ込んだということですけども、区長として6つの事業にこれだけ予算をかける思いについてちょっとお聞きしたいなと思います。

高際区長

そうですね区長になったときからやはり区民の声を区政に生かしたいっていう思いがすごく強いです。子どもレターもそうですし、今、未来としまミーティングとってタウンミーティングをやっていますけど、やっぱり区民の声を聞いて、大切にお預かりしている税金を区民の皆さんが本当に必要だということに充てたいと思っていたので、今回の事業提案も絶対やりたいと思って始めました。

200を超えるご提案をいただいたし、1,600票を超える投票をいただいて、選ばれた6つなので、冒頭申し上げたように、事業化していくにはですね、どうしようかなって所管課も悩んでいましたけども、ここはもう事業化が難しいから、別のものに差し替えようってことは絶対しないで、投票が多かったもの6つを何としても事業化しようという思いでやっています。また公園の日陰化とか未利用地のこととかは、子どもレターでね、400通を超える子どもレターをもらっていますけど、そこからの声とも非常に共通するところもありまして、そういう意味で今回の6つはすごく難しかったけど、手応えがあるということで、予算編成の中でも、力を入れて組んできたものになります。

新宿区新聞

先ほど区長からも言及がありましたが、東西デッキの話でございしますが、特に北デッキ、当初の西口再開発の関連で整備が始まるんじゃないか、なんていうこともちょっと想定されておられたようなんですけども、結果的には外れて、それは去年のこの記者会見でも豊島区の方から説明があったんですけども、それで震災対応なんかのことにも非常に大

きく影響すると思うんですけども、今後どうやってですね、その道筋を付けていかれるのかというあたりをちょっとお聞かせいただきたい。

上野副区長

基本的には西口の再開発を契機として、それにつながる形で、北側のデッキを整備して行って、降り口となる東口の受けが縦の導線が必要になってきますから、その辺の検討を進めていく必要があると。降りたところでは先ほどクルドサック化に伴う駅前広場の整備ですとか、あるいは周辺の開発が関わってくることがあり得ますから、そういったものが一連の流れの中で整備が進むような方向性を考えているところですけども、まずは西口の再開発、これがもう一つの起爆剤になるというふうに考えています。

新宿区新聞

その西口が起爆剤になるっていうのは、その西口再開発で作られるデッキを、ここに繋げるということを想定しているということでしょうか。

上野副区長

そうですね。西口での東武の開発などでもデッキの受け口だとかを想定して整備していくことを考えております。

新宿区新聞

わかりました。

広報課長

それでは、ここで令和6年度予算案重点事業記者発表を終了とさせていただきます。
ありがとうございました。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)